

平成30年度和歌山県名匠

まつ もと はま じ
松 本 濱 次

職 種：桶製作

住 所：和歌山県田辺市

生 年：昭和9年

◎ 業績及び経歴

18歳の頃、父の勧めで同郷の桶職人のもとに弟子入りし修行を積む。親方の下で技術に磨きをかけ精力的に仕事に打ち込んでいたが、昭和40年代のプラスチック製品の台頭により仕事が減少したため、桶製作から離れ木材会社で製材業に携わる。定年退職後、故郷に戻り近所の人に桶の修理を頼まれたことをきっかけに製作を再開した。厳しい修行の中で身につけた技術は20年余りのブランクをもちもせず、以来日々製作に励んでいる。

氏は材料に熊野地方で切り出されたスギを用いるこだわりを持ち、修行当時に揃えた道具を使って、全て手作業で製品を完成させる。桶の周囲の一枚一枚の板を「樽（くれ）」といい、「くれなた」で割り刃物で荒削りをする。「正直（しょうじき）」という独特の鉋で、側板同士が接する面を削るが、この正確さが桶の性能を左右するため、角度を合わせることを特に気をつけている。その後、「かいかた」という定規にあわせて、正確な円を作る。最後に自ら細かく加工した竹を「箍（たが）」として軽やかな手さばきで巻き付け、槌で根気よく仕上げている。

数ミリ単位で木を削る氏の製品には、手づくりならではのあたたかさと、木ならではの風格がにじみ出ている。桶だけでなくお櫃や漬物樽など幅広く手掛けているが、その根底にはこれらの生活用品が育んできた和食文化を後世に受け継いでいきたいという強い思いが込められている。製作に対する真摯な姿勢と心意気が県内外からの信頼を得ており、卓越した技術で暮らしの中に息づく文化を支える功績は多大である。